

子どもの読書習慣を推進させるための

ストーリーテリングに関するアジア会議

ASIAN CONFERENCE ON STORYTELLING

日程：二〇〇五年九月十九日～二十日

主催：AWIC(児童文学作家・イラストレーター協会)・BB(インド支部)主催

会場：ニューデリー市インディアハビタット・センター内ステイン・オーデトリウムにて

参加者：統括委員 酒井京子、海外担当 野坂悦子

「日本の紙芝居をインドで紹介しては」との外務省からの呼びかけに応える形で、「ストーリーテリングに関するアジア会議」に紙芝居文化の会として参加しました。インドをはじめネパール、スリランカ、タイ、モルジブ、日本など全十一カ国から集まった参加者は三百名近く。インドでも子どもの本離れは著しく、識字率の向上という課題もあって、物語を「聞く」ことから「読む」ことへ興味を育てようと、国をあげての運動が始まっているそうです。

午前のプログラムはアジア各国の専門家によるレポート発表、午後は実演時間に当てられ、古典舞踏や絵語り、バレエなどに続き、紙芝居を会議初日に紹介することができました。『あひるのおうさま』『みんなでばん！』『たべられたやまんば』『おとうさん』といった作品を英語や日本語で演じ、紙芝居の形式と特性、絵本と紙芝居の違いについて話しました。また同会場の別ホールにて、ストーリーテリング・フェスティバルも開催され、七歳～九歳の児童を前に紙芝居を実演することもできました。大人・子どもを問わず、紙芝居はすぐに参加者の強い関心を集め、私たちは「共感の世界」はアジアにとっては自然な感性なのだと思えて気がつきました。これからも、紙芝居を通じて、人が生きるために欠かせない共感の大切さを世界にむかって発信していければ、と思います。